

41. オウトウの生理落果期の把握

福島県果樹試験場 栽培部 平成11年度試験研究成績書

1 部門名 果樹－オウトウ－生理・生態

分類コード 04-08-04000000

2 担当者 志村浩雄・高野靖洋

3. 要 旨

‘佐藤錦’の硬核期と生理落果期を把握し、結実確認の時期および着果管理の時期について検討した。

- (1) 満開後10日頃から35日頃まで硬核化(核のリグニン化)の進展(ウイスナー試薬により核を染色し、指数化により判断した)を調査したところ、満開後15～17日頃から硬核化が始まり、満開後29～32日までには終了した。この時期は果実の肥大は停滞し、硬核化が終了する直前頃から果実肥大は急激に増加し、果実の地色の退色と、着色が始まった。
- (2) 果実肥大は満開後10日～2週間頃までは大きな差は見られなかったが、満開後19日頃になると果実の大きさの分布は、10mmを境に10mm～14mmの範囲の果実と、10mm以下の果実に大きく二分された。10mm以下の果実は、満開後24日頃から黄変が始まり、満開後31日までにそのほとんどが落果したが、10mmより大きい果実はほとんどが落果しなかった。
- (3) 果実径の平均値と標準偏差から果実の肥大パターンを推定すると、1果そう当たり3～4果を着果させた場合、満開後19日の段階で12mm以上の果実は収穫期にはL玉以上(5g以上)になる確率が高いと推定された。
- (4) 以上のことから、佐藤錦の生理落果は、落花後～満開後2週間頃まで(雌性器官の発育不良による落果)と、硬核期末期(満開後28日～31日)頃の落果(不受精果による落果と養分競合による落果)に分けられた。硬核期末期に落果する果実は、硬核期が開始される満開後2週間頃から肥大が劣り、満開後19日頃には判断できるため、摘果の開始時期は満開後20日前後が適期と考えられた。なお、摘果は葉果比(成葉4～5枚/1果)を基準に、果径が10mmを越える果実の中で大きい果実(できれば12mm以上の果実)を残すこととする。